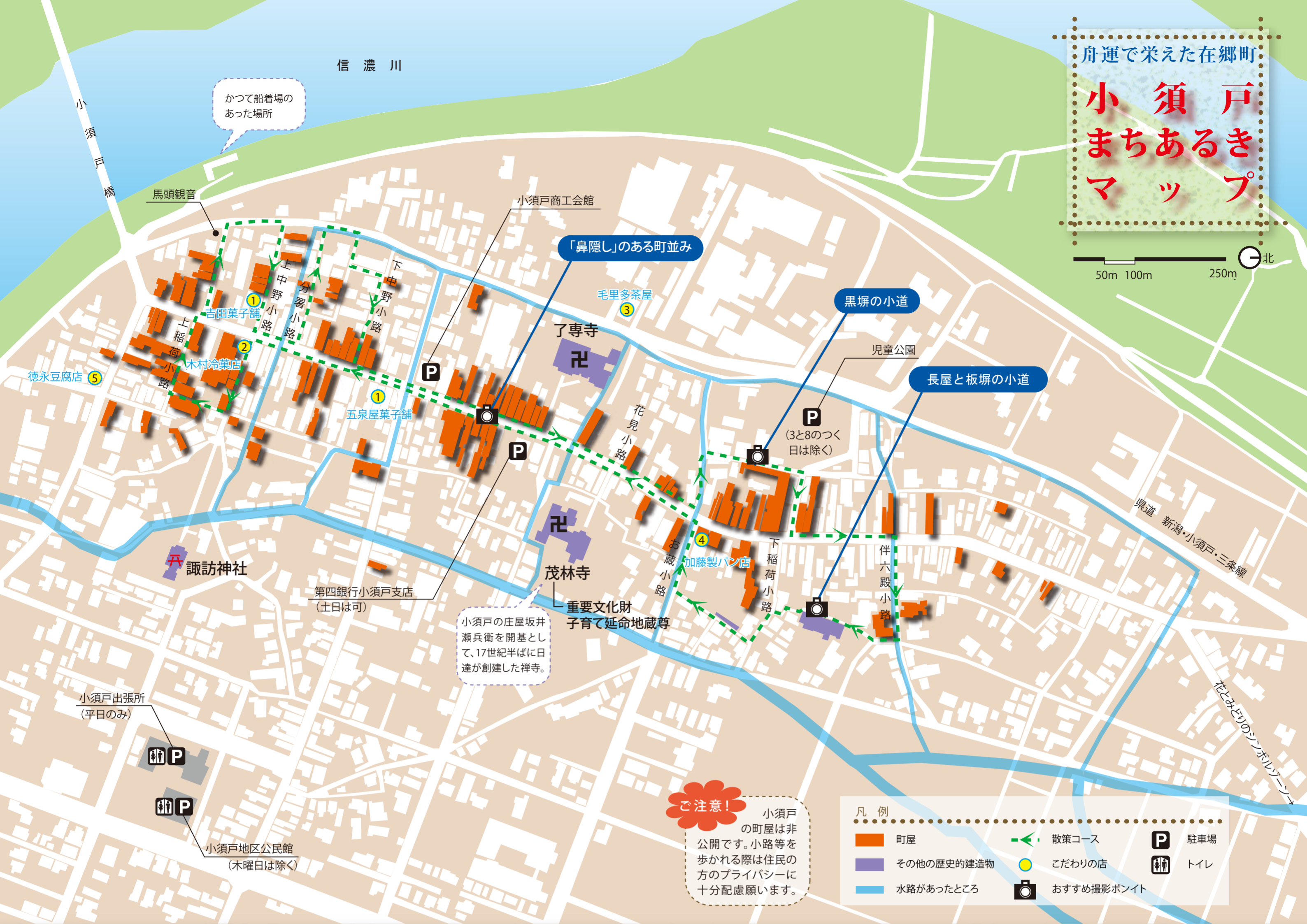


舟運で栄えた在郷町

小須戸 まちあるき マップ

50m 100m 250m 北



ご注意! 小須戸の町屋は非公開です。小路等を歩かれる際は住民の方のプライバシーに十分配慮願います。

- 凡例
- 町屋
 - その他の歴史的建造物
 - 水路があったところ
 - 散策コース
 - こだわりの店
 - おすすめ撮影ポイント
 - 駐車場
 - トイレ

おすすめ散策コース
(1時間30分程度)

<p>「鼻隠し」のある町並み</p> <p>明治に建築された鼻隠しのある町屋が、両側に連続しています。県内でも屈指の町並みと言えます。</p>	<p>黒塀の小道</p> <p>黒い塀と倉庫がある小道。倉庫は昔、醤油蔵として利用されていました。</p>	<p>伴六殿小路</p> <p>金沢のある城の城代家老だったといわれる伴六が、永享8年(1436年)の戦いに敗れて、浪人となってこの辺りに移り住んだことからこの小路名が生まれました。</p>	<p>長屋と板塀の小道</p> <p>細い小道に機織りの産業で発展した小須戸ならではの10軒の長屋と板塀が続いています。約100年前から存在している道で、表通りの町並みとはまた違った雰囲気味わえます。</p>	<p>長屋門の小道</p> <p>長屋門の両側は味噌や米を納める倉庫として利用されていました。</p>
<p>上中野小路・下中野小路</p> <p>この小路は昔から小須戸の富豪吉田宇平次、一策氏が住んだ屋敷跡で、明治末期になって金津の中野家に渡ったことから中野小路と呼ばれる。</p>	<p>分署小路</p> <p>明治10年頃、この付近に小須戸警察署があったと言われており、その2年後の明治12年に新津警察署の分署に格下げされたことからこの小路名が生まれました。</p>	<p>馬頭観音</p> <p>小須戸では、江戸時代の明和5年(1798年)に馬市が開催されていた記録があります。馬頭観音は川へ落ちた馬の供養の為に建造されました。</p>	<p>上稲荷小路</p> <p>江戸時代の庄屋であった吉岡名兵衛が守り神として屋敷内に稲荷様を祀ったことから、この小路名が生まれました。現在、稲荷様は諏訪神社境内に移されています。</p>	<p>お蔵小路</p> <p>江戸時代に新発田藩小須戸組に属する23か村の大部分の集納米を集積する郷倉が4棟あったことから「お蔵小路」と呼ばれています。</p>

町屋とは?

町屋とは、商人・職人の伝統的な住居を言い、江戸時代に入って全国に普及しました。

町屋の一般的な特徴

- 敷地が奥に細長い
- 隣家と接して建物が建つ
- 道路に接して建物が建つ
- 土間に沿って1列に部屋が並んでいる

町屋の特徴は全国共通と言えますが、外観や内部の間取りなどは地域によって異なっており、これが町屋の面白さと言えます。

妻入り・平入り

妻入り・平入りとは、建物の「棟の方向」と「玄関の位置」との関係により決定されます。

平入りと妻入りの割合はその町により様々です。小須戸は妻入りと平入りが混在しており、妻入りの方がやや多い町並みとなっています。

小須戸の町屋の外観

雁木を設け、軒先には鼻隠しが付き、2階部分はガラス雨戸と戸袋、1階部分は格子と大戸からなるものが一般的であると考えられます。

ガラス(付き)雨戸(アマド) 上部のない全てにガラスを用いており、東北地方や北陸地方によく見られる。外壁の開口部に使われる。一本引きの敷居の上を滑らせて開閉します。雨戸により様々あります。

戸袋(トブクロ) 雨戸を収納する為に外壁に設けられるものです。工夫を凝らしたデザインの戸袋もあります。

大戸(オオド) 町屋の出入口の大きな板戸を言い、開閉方式には、「片引き」「内開き」「まくり上げ」などがあります。大戸には、高さ幅が半分ほどの「潜り戸」が付いており、大戸を閉じた状態での出入の際に利用します。

鼻隠し(ハナカクシ) 軒先に打ち付ける厚板の事で、板葺板見られるものですが、や置石の落下を防ぐ役割を持っています。全国各地の町屋に現存しているところはわずかです。

雁木(ガンギ) 北陸地方の町屋によく見られます。落としを確保する為に設けられ、主に東北地方やなどの形式がある。

格子(コウシ) 木材などを直角に交差させて組んだものを言います。屋外からは中の様子が見えにくく、屋内からは外交差させて組んだものがよく見えるように出来ています。

小須戸の町並みの価値

変わらぬ町の骨格

明治の大火以降、町の姿を一変するような災害や戦災に見舞われていないため、江戸時代からの伝統的な敷地割や道路網などが現在も良く残っています。

質の高い町屋

単に古いだけではなく、それぞれの建築の質が高く、立派であるといえます。それは当時良い材料や技術があり、舟運などによる経済的な繁栄があったからであるといえます。

道の内側に残る町屋

道の両側に町屋が集中して残っていることが大変貴重であり全国的に見ても珍しいものです。

小須戸の町屋の間取りと特徴

小須戸の町屋の間取りは表の通りからミゼ、チャノマ、イマ(ネマ)、ナカニワと続いており、表の通りに面した2階がザシキとなっています。

チャノマには神棚と仏壇が配置されており、上部は吹抜けとなっています。ドマの上部はザシキとウラニカイをつなぐ渡り廊下となっている町屋がよく見られます。

庭は、ほかの町と比べて広く、「ナカニワ」と呼ばれていることからその事が伺えます。

また、ドマが途中で折れ曲がっているのも特徴のひとつです。ドマが折れ曲がった部分は、台所やお風呂場などとして利用されていることが多いです。

2階 平面図

廊下、吹抜、ウラニカイ、ザシキ

1階 平面図

ドマ、ミゼ、チャノマ、イマ、ナカニワ、居間、台所・食堂、風呂、土蔵

チャノマの吹抜、ドマ上部の渡り廊下、広いナカニワ、途中で曲がるドマ